

佳作

5271

愛知県 蒲郡市立中央小学校一年 青山 莉奈

わたしにはいとこが三にんいます。そのうちのひとり、「ゆう」というおとこのことのおはなしです。まえにあったのは三ねんまえ。ゆうはまだあかちやんでした。そのときは、おしゃべりもできないし、あるくこともできませんでした。四さいだったわたしも「ゆう、ゆう」となまえをよぶだけで、どうやってあそべばいいかわからないようすだったとママからききました。

しかし、ことしのおぼんにやっとあうことができました。ゆうはどうきようにすんでいてなかなかあえませんでした。三さいになったゆうは、めがくりくりで、はだがしろくてげんきいっぱいのおとこのこになっていました。ゆうがいたみっかかんでいろいろなことをしました。

いちにちめ。しんせきのスタジオで十二にんあつまってしゃしんをとりました。そのあとおはかまいにいききました。

ふつかめ。スタジオでしちごさんさつえいをして、よるはいえのまえではなびをしました。

みっかめ。だがしやさんやたけしまにいききました。じぶんのいえも、よくいくばしょもゆうといっしょだとてもたのしかったです。

わたしはゆうをまもるため、どこにいくときもてをつなぎました。ゆうもずっと「りなちゃん、りなちゃん」とよんでくれてうれしかったです。

でもさいごのひ、ゆうがなっていました。ゆうのパパとママにきくと、

「てをつなぎたいけど、じぶんからいえなくてないてるの。」

といました。わたしがそつとてをだすと、うれしそうにてをつなぎました。

わたしはいつも、はどこのおねえちゃんたちにあそんでもらっているけど、ゆうといるときはわたしがおねえちゃんなんだ、しっかりしなきゃとおもいました。

こんどまたゆうにあえたら、たくさんあそんで、

たくさんてをつないで、もっともいいおねえちやんになれるようにがんばりたいとおもいます。